

# 令和元年度

## 環境先進企業見学研修会開催

1. 開催日 : 令和元年 6 月 25 日 (火)
2. 会場 : パナソニックエコテクノロジーセンター株式会社 (兵庫県)
3. 主催 : 湖南・甲賀環境協会
3. 参加者 : 36名



### ◆見学研修会の目的

環境先進企業の取組を、実際にご覧いただくことで、環境保全に対するご理解を一層深めていただくことを目的としている。

本年度の環境先進企業見学研修会は、6月25日に36名の参加をいただき、パナソニックエコテクノロジーセンター株式会社を見学いたしました。

簡単に見学先の内容をご紹介します。

パナソニックエコテクノロジーセンター株式会社 (PETEC) は「商品から商品へ」の循環型モノづくりを推進する家電リサイクル先進拠点として、2001年からスタートし、使用済の家電製品から資源を回収し、新しい商品の材料として供給されています。

かつての廃家電は、鉄など一部の金属を回収するほかは、そのまま粗大ごみとして埋め立て処分されていました。2001年4月に「家電リサイクル法」が施行されたことで、廃家電を正しく回収、効率的にリサイクル処理し、再び原材料として生まれ変わらせるしくみが確立されてきました。

たとえば映らなくなったテレビを処分するとき、消費者は「排出者」として家電リサイクル法に定められている通りに販売店に依頼するなどし、テレビを有料で引き取ってもらいます。このように日本国内で回収される指定4品目（ブラウン管テレビ・薄型テレビ、エアコン、冷蔵庫・冷凍庫、洗濯機・衣類乾燥機）の使用済家電の量は、年間1、273万2千台にもものぼります（平成25年度引き取り実績）。



#### ・PETECでのリサイクル率

PETECでは、テレビ、エアコン、冷蔵庫、洗濯機ともに定められた法定リサイクル率以上の高いリサイクル率を達成しています。

- ① テレビ：99%（マテリアルリサイクル87%、サーマルリサイクル12%）  
特に素材構成の異なるプラズマテレビと液晶テレビを、手解体で細かく分別し、液晶テレビに含まれる水銀もきちんと確実に回収していました。
- ② エアコン：96%（マテリアルリサイクル95%、サーマルリサイクル1%）  
エアコンは鉄、銅、アルミなど、多くの金属部品で構成されており、これら素材を正確に分別し、冷媒フロンの回収も行われていました。
- ③ 冷蔵庫：97%（マテリアルリサイクル81%、サーマルリサイクル16%）  
冷蔵庫にはボディに使われる多量の鉄をはじめ、銅やアルミなど全体の約6割を占める金属が使われ、次に多いのがプラスチック素材。  
断熱材に使われるウレタンフォームにはフロンガスが含まれていますが、これらもしっかり回収され、ガスが抜かれたウレタンフォームは固形燃料（RPF）化されています。
- ④ 洗濯機：93%（マテリアルリサイクル93%、）  
洗濯機では洗濯ドラムの回転バランスをとる塩水が入っており、これらの回収も行われていました。洗濯機では鉄の次に多く使用されているプラスチックは、中でもよく使われているポリプロピレン（PP）の樹脂の高純度な選別が行われていました。  
又、ドラム式洗濯機には乾燥機能を持ちフロンガスを冷媒として使われており、エアコンや冷蔵庫と同様に冷媒フロンの回収が行われています。

このように PETEC では「つくる⇒つかう⇒もどす⇒いかす」という流れで貴重な資源を循環させ、ごみの減量と「商品から商品へ」の循環型のしくみ確立の一翼を担われていました。更に、社会・地域に開かれた工場として環境学習の生きた教材として、地域の小中学生をはじめ多くの子供たちに家電リサイクルの現場体験を頂いているとの事でした。

施設を見学した際、各ラインが商品毎に明るい色合いでカラーリングされていました。これには、工場見学者に対する配慮と働く人の作業の効率化と事故防止のために、そして明るい気持ちで働けるようにとの思いが込められているとの事でした。

徹底的に資源の有効利用を推進している取組が体験できた研修会であったと思います。本見学研修会のアンケートや会員の皆様からの要望事項などを考慮して、来年度の研修会を企画していきたいと思います。

今後とも宜しくお願い申し上げます。

参加者の皆さん



以上